

農林水産省食料産業局長賞

『魔法の「とん汁」』

茨城県神栖市立植松小学校 六年二組 男子 白倉 拓実

ぼくにとって給食は、元気の源です。好きなメニューはたくさんありますが、中でも「とん汁」が出る日は、心がウキウキします。

ぼくは毎朝学校に来ると、まずこん立表を見ます。そしてその日のこん立を確認するのが日課です。好きなメニューの日は、午前中にどんなに苦手な科目があっても、自然と元気が出て、がんばることが出来ます。

給食から元気をもらうことは今までたくさんありましたが、中でも忘れられない、心に残る給食があります。それは、持久走大会を数日後にひかえたある日のことです。その日、練習を始めるとすぐに、ぜん息の発作が出てしまいました。いつもならスイスイ走れるきよりなのに、その日は苦しくて苦しくて、思うように走れませんでした。自分の実力が出し切れず、いつもの順位よりも悪い結果になってしまったぼくは、くやしくてたまりません。いつもなら友達とも楽しく話せるのに、その日はくやしさのあまり一言も会話ができませんでした。気持ちが落ちこんだまま給食の時間になりました。すると、ぼくの大好きな「とん汁」のかがりがありました。それと同時に、今日のこん立がぼくの大好きな「とん汁」だった事を思い出したのです。少し煮くずれたジャガイモがみそ汁とまざったあの味が、ぼくは大好きで、「とん汁」は給食の中で一番好きなメニューなのです。「とん汁」を食べると、くやしかった気持ちもどこかへふきとんでしまいました。そして午後からは元気に笑顔ですごすことができましたのです。この日からぼくにとって「とん汁」は、元気をくれる「魔法のとん汁」になったのです。そういう日が何日か続き、いよいよ本番の日をむかえました。何とその日の給食は「とん汁」でした。それを見て、とてもやる気になり、何が何でもがんばろうという気持ちになりました。その結果、当日はぜん息も出ず、万全の体調で走ることが出来、練習の順位より大きく上がり、満足のいく結果を残すことができました。その日の給食で食べた「とん汁」は、持久走大会でがんばった自分へのごほうびのような感じがして、よりいっそうおいしく感じました。その日の「とん汁」の味は、一生忘れない、心に残るものになりました。

ぼくにとって給食は、ぼくに元気をくれる「魔法」の食べ物です。毎日おいしい給食を作ってくれる人にも感謝しながら、残り少ない小学生生活を給食と共に楽しんでいきたいと思えます。